



魂の渇き





水道の蛇口をひねればいつでも飲める水が出てくる国は、そんなに多くはないそうです。トイレに流すだけの水も同じ水道水を使うくらい、わたしたちは水に困らない国に生きています。それに対して、聖書の舞台であるイスラエルは国土の60%が乾燥地帯で、「水」に対するイメージは日本人のイメージする「水」とは全く異なっています。ただ、そのイスラエルも今では海水を淡水化する技術や最近では空気から水を造り出す技術も生まれて、水が問題となる国ではないようです。そう思うと、イスラエル人でさえ、水に対するイメージは聖書時代のそれとは随分違ってきているのかもしれません。

旧約聖書の詩編1編では、神の教えを愛し昼も夜もその教えを口ずさむ人を「流れのほとりに植えられた木」に例えて、「時が来れば実を結び、葉もしおれることがない」

と表現しています。日本人であるわたしにもそのイメージはわかります。ただ、日本には流れのほとりは山ほどあり、流れのほとりから離れていても生い茂る葉や実を結ぶ木はいくらでもあります。この詩編にでてくる「流れのほとり」とそうでない場所とのコントラストは、きっとわたしが想像しているもの以上なのだと思います。

同じく詩編42編は神を求める自分の姿を鹿が谷川に水を求める姿に重ね合わせて描いています。実はそこに描かれている谷川は、普段は水のない涸れた谷川です。神を求めてもなお魂の渇きを癒すことができない苦悩が描かれています。こういう表現は、いつでもどこでも簡単に水を手に入れることができるわたしたちには実感することが難しいかもしれません。もっとも、それをどう表現するかは別として、魂の渇きそれ自体はどの国に住んでいてもあるはずです。そうでなければ、キリスト教はユダヤ人の宗教に終わっていたことでしょう。問題なのは、魂の

渇きに対していくらでも鈍感になれてしまうことです。渇ききった魂に気づき、その魂が何を求めて叫んでいるのか、真摯に耳を傾けて聴く時間が大切です。



「運河」



IBUKI-Christian Artist Network

神から命の息吹をいただいたクリスチャンの芸術家ネットワーク (2014年6月発足)

7

ちょっと教えて!





教会は誰が行ってもいいの?

「教会は敷居が高くて…」との声を耳にします。教会は誰にでも開かれているのですが、「こんな自分ではだめ、もっとちゃんとしてから」と思う人も少なくないようです。教会は良い人の集まりではなく、神様から離れてしまっている(罪がある状態)ということを知った人・知りたいと思う人の集まりです。十字架に架かり、私たちの罪の身代わりとなって神様と私たちを繋いでくださったイエス様が、待っていてくださるところです。「教会に行ってみたいな」と感じた時には、そのままのあなたでいらしてください。



なぜ祈る必要があるの?

神は私たちの必要を誰よりもよくご存知です。それなのに、なぜ祈るのでしょうか。私たちは、自分の本当の必要すら実はよく分かっていない存在です。自分の願いの実現のためではなく、神の御心がどこにあるのかを知るために祈ります。どんなことを祈ってもよいのですが、希望通りになるとは限りません。待つことを求められることもあります。神がどのようにその祈りに応え、私たちの本当に必要で最も良いものをくださるのか、祈りを通してその御心を学ぶことを神は望んでおられます。

改革派教会とは

プロテスタント教会は、16世紀にヨーロッパで起こった宗教改革運動から生まれました。改革派教会は、「聖書に忠実な教会に立ち返らせよう」としたこの運動の指導者の一人、カルヴァンの伝統を継承しています。改革とは原型に戻すこと、「聖書によって改革された、また改革され続ける」という意味です。日本キリスト改革派教会は、1946年に創立。正統的な教会の一つで、現在、全国に140の教会があり、会員数は1万人程です。

RCJメディア・ミニストリーについて

RCJメディア・ミニストリーは日本キリスト改革派教会大会メディア伝道局の活動の通称。1967年にラジオ番組「あさのことば」を開始し、現在はラジオやインターネットによる放送伝道を中心に、福音(良い知らせ)を届けています。通信講座や季刊紙「JOY!」などの文書やCD、また、集会を開いてリスナーとの直接的な相互の関係を深めた伝道にも励んでいます。HP「ふくいんのなみ」で番組を聴くことができます。



日本キリスト改革派教会

RCJメディア・ミニストリー 主事 山下正雄 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1 OCC613 TEL 03-3292-7604 ☑ info@jesus-web.org

